

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|--|----------------|-------|-------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 897 号 | 氏名 | 馬場 真紀 |
| 学位審査委員 | 主 査 | 中島 正洋 | |
| | 副 査 | 大園 恵幸 | |
| | 副 査 | 前田 隆浩 | |
| <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、血球減少を示す疾患の中で、造血器悪性腫瘍のひとつである骨髄異形成症候群 (Myelodysplastic Syndrome: MDS) とその他の血球減少症 (Cytopenia for Various Reasons: CVR) との鑑別に、WT (Wilms tumor) 1 の発現量が補助診断として有用かを検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 血球減少の精査目的に採取された MDS 患者 56 名と CVR 患者 47 名の骨髄液を対象に、WT1 mRNA を real-time PCR により定量し、骨髄芽球比率との相関、MDS 亜型や予後予測スコアリングシステムとの関連、MDS と CVR の群間差を統計学的に解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、骨髄液中の WT1 発現量は芽球比率と相関し、高リスク MDS で有意に高く、一方、CVR では有意に低値であり、特に臨床重要となる再生不良性貧血と骨髄低形成 MDS との鑑別に有用であることが明らかとなった。これらの解析結果は、WT1 mRNA の定量は、血球減少を呈する疾患の中で、MDS の補助診断として有用であること示す結果として評価される。</p> <p>以上のように本論文は、造血器腫瘍診断学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p> | | | |